第1回和歌山市動物愛護管理連絡協議会

１．日時　　令和２年１２月２２日(火)　１４：００～１５：５０

２．場所　　和歌山市動物愛護管理センター　講習室

３．出席者　　協議会　8名　（出席予定者11名のうち3名欠席）

事務局　5名

傍聴者　2名

４．内容

（１）報告事項

・協議会設置にいたる経緯および協議会の役割について

・和歌山市動物愛護管理センターの現状について

（２）協議事項

・殺処分ゼロに向けての取り組みについて

１）収容数の減少について

２）譲渡の促進について

５．頂いたご意見

（１）殺処分ゼロに向けての取り組み

１）収容数の減少について

　　　・最近では特に猫を多頭飼育する人、家の中と外で飼い猫なのかそうでないのかよくわからない状態で餌を与えている人が多い。その点の指導の徹底が必要ではないか。

　　　・飼い犬には登録制度があるが、飼い猫の登録制度の導入や、マイクロチップの義務化を条例で制定はできないか。

・高齢者への譲渡の制限について、高齢者への譲渡制限は必要ではないか。結局行政に持ち込まれる犬にしても猫にしても、高齢者が死亡や、病気が原因で飼えなくなったという理由が多いと聞いている。譲渡する際には、年齢制限を設ける時期に来ているのではないか。

　　　・譲渡を推進していく方法として、先ほどの意見とは反するかもしれないが、老犬ホーム、老猫ホームでの高齢者が働く仕組みや、高齢者が一時的に保護犬・保護猫をお世話する仕組みがあっても良いのではないか。返還を前提とした高齢者への譲渡システムがあれば、センターの犬や猫の数がコントロール出来て、殺処分の数も減るのではないか。

　　　・和歌山市の場合、迷子犬や譲渡候補犬についてFace book等でよく見ますが、猫についてはあまり見かけない。せめて譲渡候補の猫についても充実させてほしい。

・犬にしても、猫にしても迷子になった動物は、かなりの距離を移動することを最近知ったのですが、県内あるいは近隣自治体との間で、迷子犬、迷子猫の情報を広域的に教習する仕組みを作ってほしい。そうすることにより、野良犬や野良猫だと思っていた犬や猫が飼主のもとに帰れる可能性が出てくるのではないか。

　　　・土・日・祝日に委託を受けて動物棟の管理を行っているが、特に猫の収容数が多いためにどうしても、先住猫と新しく入る猫が同じ部屋で管理されているため、病気のまん延が心配である。検査後の隔離とワクチン等の接種をお願いしたい。

・それと、これも収容数の問題ではあるのですが、猫の収容スペースが狭いのもストレス管理という点では問題なのではないか。殺処分ゼロ目指すがゆえに、譲渡もできない猫をいつまでも置いておいては、返って他の猫が犠牲になるのではないかと思う。

２）譲渡の促進について

　　　・譲渡を促進するにあたって、犬には、狂犬病予防注射やフィラリア検査を行ってほしい。狂犬病予防注射については譲渡が決まれば新たな飼主から徴収すればよいのだから、センターの負担にはならないと思う。むしろ狂犬病予防注射の率も上がるし、注射をしていることにより、譲渡率も上がるのではないか。フィラリアの検査についても仮に陽性であっても、譲渡できるケースもあると思う。それと、譲渡候補の犬や猫はセンターでワクチン接種や不妊去勢手術をしてくれた方が譲渡され易いと思う。それから、譲渡後のフォロー不妊去勢手術、健康状態の確認をする必要もあるのではないですか。

（２）その他

　　　・協議会をどんな目的で、どのような会にするか、協議会で話しあわれた内容の公開の方法（個人でのＳＮＳ等への投稿の禁止などを盛り込んでほしい）をきっちり決めるべき

　　　・和歌山市としてセンターを今後どのような施設にするのか、衛生的で、動物福祉の観点から動物を管理してほしい。

・獣医師の職員が手術するのではなく、職員は行政として他の仕事をすべきである。また寄附金を当てにするのでなく、（議会の承認を得て）予算を取った上でボランティアや獣医師会などと連携し、委託できるものは委託し、それぞれの得意分野で進めていくことを求める。